

里づくり

第10号 2015年2月

編集・発行/北海道農政部農村振興局農村整備課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-231-4111 / FAX 011-232-4128

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nss/2_kannri/shidouindayori.htm



苫前小学校、古丹別小学校5年生を対象とした稲作体験（田植え）
写真提供：苫前町 白府 勝二三 アドバイザー

CONTENTS

地域づくりリレーインタビュー 「行動力と経験を伝えることで地域に人を呼ぶ」
ふれない新規就農者受入協議会ネオフロンティア 会長 藤江 一博 さん
事務局長 渡辺 邦衡 さん

北海道里づくりアドバイザーレポート
喜茂別町 宮本 弘夫 さん

退任にあたって
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会 松木 靖 委員長

新任アドバイザーのご紹介

BOOKS

トピックス

人に学び、地域に学び、今できることから始める

行動力と経験を伝えることで地域に人を呼び

ふれない新規就農者受入協議会ネオフロンティア

会長 藤江 一博 さん
事務局長 渡辺 邦衛 さん

平取トマト「ニシパの恋人」を栽培する平取町振内(ふれない)では、平成十五年から新規就農者の受入を始め、現在まで十三戸を受け入れている。ふれない新規就農者受入協議会ネオフロンティアは、新規就農をサポートするため、地元農家と新規就農者により結成された団体である。インタビューのため藤江さんの自宅へ向かう途中、道路脇に広がるトマトハウスの側にあちこちと新築の一軒家が建っていた。新築で目を引くこともあり、古くからある住宅より多いようにさえ感じる。藤江さんに伺うと「あの辺りはみんな新規就農者が建てた家ですよ」とのこと。多くの新規就農者受入の実績を持つ振内で、団体を立ち上げたきっかけや安心して営農・定住してもらうための取組を伺った。



藤江 一博(ふじえ かずひろ)さん

1951年 平取町振内生まれ
祖父から農地を引き継ぎ、
息子と共にトマトを栽培。
2010年 ふれない就農者受入
協議会ネオフロンティアを
設立、会長を務める。



渡辺 邦衛(わたなべ くにひら)さん

1967年 江別市生まれ
2004年 学生時代から過ごし
た東京から平取町へ移住
2年の研修の後、振内で新規
就農。
2010年 ふれない就農者受入
協議会ネオフロンティアの
事務局長を務める。

未来のために土地を買う

会長を務める藤江さんの活動のきっかけは、営林署の苗畑が売りに出されたことだった。

祖父から引き継いだ農地は、既に息子が就農していたが、過疎化が進む地域に不安を感じていた。

売りに出された苗畑は広くまとまった土地だったため、過疎が進む地域の未来のために使いたい」と、地元の農家仲間と話を持ちかけた。

この土地に新規就農者を呼び出すことを目指し、5名で前身のアグリフロンティアを設立、農協から融資を受けて購入した。

抜根などの整地費用も含めて、購入金額は約千四百万円だった。

「仲間から、就農者が誰も来なかったらどうする、と不安の声もあったけれど、来なかったら自分たちが使えばいいや」と失敗は考えませんでした。

ハウスの設備等に使える道からの助成があったこともあり、平成十五年から毎年一戸ずつ、四戸の就農が決まり、その後三戸が就農した。

先輩からのアドバイスが後押し
事務局長を務める渡辺さんは平成十八年に、藤江さんらが用意した苗畑跡地に就農した。

江別市生まれだが、学生時代から東京で過ごした。「都会の生活に無理して合わせていました。農業に憧れ、トマトが好きだったため、農業をするならトマト栽培がいかな」とそんな感じで振内に決めまし

た。横浜育ちの妻にはとても反対されました。

しかし、新規就農者が多いこともあって、今は地域に溶け込んでいるとのこと。

「地域の奥さん達と一緒に地域行事を楽しんでいます。一番気合いが入っているのは、一年構想で挑む仮装盆踊りかな。読み聞かせなどの小さい行事もあって、楽しく過ごしているようです。」

就農に不安はなかったのか訊ねると、「決めるまでに何度も振内を訪れました。先に就農していた先輩達に話を聞いて、初期投資は大きいけれど、頑張れば経営していけば何とかなりそうだな、という道筋も見えました。就農前に先輩達の話を聞くことができたのは、心強かったです。」

就農説明会へは女性を派遣

藤江さんらが用意した苗畑跡地は全て就農者が決まったが、今後も新規就農者に安心して振内に来てもらえるよう、美深町の就農支援団体「R&Bおんねい」の視察や、振内研修ハウス設置の陳情を町に対して行うなどの準備を進め、平成二十二年に地元農家と新規就農者の十三戸でネオフロンティアをスタートした。

多くの就農希望者に来てもらえるよう、毎年、東京で開催される新・農業人フェアへ、町職員と共にネオフロンティアの会員も参加していると、渡辺さんは言う。

「新・農業人フェアへは、新規就農者の奥さんが行くことにしています。就農



新規就農者のための説明会

は家族連れが中心で、初期投資が多額です。生活環境が大きく変わるため、一大決心をしなくてはなりません。男性は就農に対して夢が膨らみがちですが、女性は厳しく現実を見えています。地域の様子や実際の生活、地域行事の写真をアルバムにして見せるなどの工夫をして、同じ不安を持って就農した奥さんが経験を話すことで、一步を踏み出しやすくしています。」



実際の生活や地域行事の写真をアルバムに

しかし、出展ブースでは、振内に多くの新規就農者がいることなどの特徴が出せていないとも感じている。

「平取トマトのブランドだけではなく、就農後の離農者がいないことや、研修住宅を新築したことなどをこれから就農する人にアピールし、もっと振内をPRしていきたいと考えています。」

就農のための土地探し
もう一つ、ネオフロンティアの大切活動として、新規就農者のための土地探しがある。

離農地はたくさんあるが、先祖から受け継いだ愛着のある土地を見ず知らずの人に譲ることはできないと思う人が多かった。

通常は役場や農協が橋渡し役として仲介するが、役場は事務的、農協は既存農家に肩入れしがちで土地代金が高くなってしまうと渡辺さんは言う。

「藤江会長が行くと、藤江さんが言うなら大丈夫だろう」と譲ってくださいなんです。藤江会長の緩衝材としての役割は大きいです。」

地元の人たちにも変化が出てきたと藤江さんも感じていた。

「やはり地域から人がひとり、ひとり欠けていくと寂しさを感じていたようです。良い土地あるから声をかけてよ、と言ってくれる人もいました。」

しかし、代々引き継いだ土地を手放すとなると、心境は複雑なようだった。

「譲るよ、と言ってくれていた人の所に話を持って行っても、どうしようかと首をかしげてしまう。後継者がいなくても、やはり自分の土地を手放すというのは簡単ではありません。しかし、地域に元気になって欲しいという思いは一緒なので、結局は協力してくれまます。近隣から新規就農者に対する不安の声も、土地を譲った後のトラブルも今のところありません。現在も二、三戸に声をかけて頼んでいます。」

これからのネオフロンティア
ネオフロンティアの活動に押され、農協、役場、他地区の受入団体とネオフロンティアを構成員とした、新規就農者受入のための協議会が立ち上がった。

今までネオフロンティアの会費から支出していた新規就農者への説明会に向く旅費が一部補てんされることになり、町や他地域の新規就農者受入団体との連携も取りやすくなったとのこと。

今後の活動について、渡辺さんに伺った。

「ネオフロンティアの活動は、新規就農者だけではできない活動で、藤江会長のような地元の人がいってくれるから、うまく役割分担をしながら進めて来られたと思います。自分は新規就農者としてできることをして、後から就農する後輩達

が会員の誰にでも相談できる環境づくりをしていきます。アドバイスする先輩達が多いせいか、また、先輩達もアドバイスすることに慣れてきたのか、後から就農した人たちが自分たちの時より上手く営農しているようです。アドバイスは本当に大切だと感じます。ただ、組織立ち上げから歳月が経ち、ネオフロンティアが努力して整備してきた新規就農者のための設備や環境が、後から来た人たちには当たり前に思われて、温度差を感じています。今後どうしたらいいか考えています。」

藤江さんにも今後の活動について伺った。

「振内の活性化のために、自分ができることは、この地区に新規就農者を増やすこと。現在は、町の予算の関係で、平取町地域担い手育成センターを通じて年に一組しか受け入れることができません。しかし、せっかく振内に来てくれる人たちをふるいにかけるようなことはしたくない。今後は、後継者のいない農家で研修し、そのまま就農できるような取組を行い、年に二戸を受け入れられるようにしたいと思います。協力してくれるという農家さんもいますので、今後は、協議会とも積極的に調整を行い、新規就農者を募集していきたいと思っています。また、NPO法人などと連携して、農業体験ツアーなどを受け入れたいです。就農に興味があれば、体験することで振内や農業の良さをわかってもらえると思います。」



北海道里づくりアドバイザーレポート

喜茂別町 宮本 弘夫さん

札幌市役所を早期退職されて喜茂別に移住したと伺いましたが

出身は上川管内和寒町で高校まで過ごしました。その後、札幌に出て農業や土木の勉強をし、札幌市役所に技術職員として入庁、主に農業や公園の農林関係の仕事に就いていました。三人の子供に恵まれ一番下の子が社会人になった時、子供達から「お父さんの好きにしても良いよ」と言われ、第二の人生を過ごす土地探しを始めました。



とても仲が良い宮本弘夫アドバイザーと妻の豊子さん

当時は、炭焼きでもやろうかなと考えていたんですね。

縁もゆかりもない喜茂別町に決めたのですが、強いて挙げると売りに出ているた此所の土地が、私の両親と家内の実家との中間位に位置していたことが決め手となりました。炭焼きは直ぐに挫折したのですが・・・。

移住に対して不安はなかったのですが
一人ならば移住は無理でしたが、家内が一緒だったので自分達の生活自体に不安は感じてはいませんでした。

都会の生活に飽きていたので、田舎暮らし、自然の中でゆっくりと暮らしたいという気持ちが強くありました。三十六年もの間、役所にいたので「もうそろそろ良いかな」って感じでしたね。

それよりも、何せ新参者なので、此所の地域に受け入れてもらえるものなのかどうか心配でした。皆、此所の町のことや此所の土地のことを良く知っている。地域の一人として上手くやれるかどうか心配でしたが、地域の行事に顔を出し、積極的に集まりに参加することによって、何とかやって来られたのかなという気がします。



完成まで4年を要した自慢のログハウス

お住まいは豪麗なログハウスですが

元来ログハウスが好きで検討をしていました。森林組合にも足を運び丸太を探していましたが、細い間伐材しか見つかりませんでした。偶然、育苗圃の防風林にしていたものが売りに出ているのを見つけ、丁度私の歳と同じ年数が経っていることを聞き、運命のような気がして勢いで百本買ってしまいました。

小さい頃から大工仕事がとても好きだったので、屋根工事などのごく一部を除いては、家内と二人で丁寧な造り上げました。でも、勢いで買った丸太は、全然手入れがされていなく、節がいっぱいで木の皮を剥ぐのに時間が掛かり、大変な作業となりました。何せ二人で一日一本のペースでしたからね。こちらに泊まり込んで作業を続けましたが、完成まで四年の歳月を要しました。

札幌での生活と比べると大きく環境が変わりましたが

田舎でゆっくりしたいという気持ちがあったので、ここでの生活が気に入っています。空気がきれいで、ホタルが飛び交う。景観的にも羊蹄山が見え、尻別川が流れる。都会の生活と比べると買物する店や病院などが遠く、将来運転が出来なくなったらどうするのだろうかと思うことはあるものの、取り敢えず二十年は大丈夫。二十年は楽しみたいです。



手造りのピッツア窯（ご馳走様でした）

私は、趣味の大工仕事が興じ、母屋のほか車庫や作業小屋、除雪機などの格納庫、ピッツア窯の小屋、五右衛門風呂がある外風呂などを楽しんで建てています。家内は今では二十種類もの野菜作りを精を出し、昨年は水田にも挑戦しました。スローライフを夢描いていたのですが、自分達の楽しみや地域での交流のことを考えると、ゆっくりとした田舎暮らしとは程遠いのかも知れませんね。

「森のお茶会」を地域の交流の場として 月一回開催されています

毎月、第二水曜日のお昼時に二時間程度「森のお茶会」を開催しています。当初は、地域おこし協力隊員が主体でした。役場から委嘱された集落支援員として、隊員が地域に馴染めるよう地元の人との語らいの場として自宅を提供したのがきっかけです。世話役として場所の提供をしていたのですが、隊員の任期が切れた平成二十四年一月から地元の人から「森のお茶会」がなくなるのは寂しいと声が挙がったことを受け私が引き継ぐことにしました。



母屋から仕掛廊下で繋がる建物には五右衛門風呂あり

最初の頃は、ギターの生演奏、タップダンスという風に、毎回テーマを決めていましたが、食べ物絡ませた方が人が集まりやすいと考え、今では時期によつ

て山菜を採って調理したり、秋には畑で収穫した食材を使ったりという具合にしています。食べて、お茶を飲んで、何気ない会話を交わし、地域の人と交流を深めています。食事を兼ねるため、家内の協力なしには出来ない集まりですね。

私が引き継いでから、町内全戸にIP告知端末機が導入されて案内が便利になりました。足の悪い人には、私が自家用車で迎えに行ったりもしています。以前は主役だった隊員も、現在では自分の仕事の合間を見計らい、裏方で運営の協力をしてくれるようになりました。

喜茂別町では多くの「地域おこし協力隊員」が活躍されました

平成二十二年度第一期の隊員十名は集落の高齢者生活支援を、第二期の三名は介護予防支援を中心に活動をしていました。皆、都市部から喜茂別に移って来たのですが、十三名中十名が任期を終えても町内に残り、就業しています。起業した人や福祉施設に就職した人など職種は様々です。

隊員が活動を始めた頃は、協力隊の認知度が低く彼等も大変な思いをしたようです。巡回で家庭訪問すると、「何しに来た」と怒られたりしてね。そんな時に「森のお茶会をやりますよ、こんなテーマでお茶会を開きますから来てください」と言うと、少し場が和んだりして。私の地区でも二名が活動をしてくれて、現在でも率先して行事に参加するなど、任期後も地域に貢献してくれています。

喜茂別町の将来に向けた動きは

最近、喜茂別町にも観光協会が出来ました。現在は観光資源の掘り起こしをしており、今後に期待するところです。観光協会事務局長は役場職員が兼務していますが、個人的には近い将来外部の目線を持つている地域おこし協力隊員だった人が、そういう立場に就いてくれるまでに成長してくれたら面白いですね。

この町は洞爺やニセコに行くには便利な場所ですが、観光的には通過の町と言われると思います。少しでも人が留まってくれるような、もっと魅力的な町になればいいなと思っています。



敷地内には手造りの小屋が沢山、何でも造ります

個人的にも三月には新たな動きがある と伺いました

以前、沼田町の野道夫アドバイザーをお招きした際に、ホタルのお話しを伺いました。ホタルには前から興味を持つ

ていたこともあり、ホタルの里づくりをやりたいな。この地域で「あそこに行けばホタルが見られるよ」と言われる地域を作りたいと考えています。

「森のお茶会」は、家内の協力のもとに成り立っていますが、基本的には個人の運営で行っているものです。今は森の暮らし体験施設としていますが、新たな活動は、組織を立ち上げての活動を考えています。ホタルの里や水田づくりもその一つです。実は組織の規約だけは作成済みで、仮名称は、里山保全活動組織「道草森」です。

誰もが気軽に立ち寄れる場所でありたいとの思いから、「道草森」と描いた看板を国道入口の大きなトドマツに掲げています。ふる水事業に関わる皆さんには、国道二百三十号を通る際にお立ち寄りいただき、新しい活動に対してアドバイザーをお願い出来ればと思います。

奥様記録

- ・退職後、一度も床屋へ行かず、以前はどんな顔をしていたのか忘れました。
- ・スーツが似合わなくなりました。
- ・畑は植えるばかり。私が管理して収穫して食べられるようにします。
- ・本人は分業だと言ってきます。
- ・ログハウスには住みたかったけれど、建てたい訳ではありませんでした。
- ・本当に変わりました。こんなに働く人だったのだと思いました。

退任にあたって

北海道中山間ふるさと・水と土

保全対策委員会 委員長 松木 靖

平成十七年度から十年間、ふる水事業に関わってきましたが、平成二十六年年度末をもっての任期満了で退任することになりました。この間お世話になった、指導員ならびに道庁・振興局の担当職員の方々、事業実施地区の関係各位には厚く御礼を申し上げます。

私にとって、ふる水事業は二つの点でも魅力的で大事にしたい存在です。その第一は指導員会です。指導員は土地改良区職員、自治体職員、農業者、商工関係者と様々です、様々な立場の人々が地域の将来を語り合うことは、現場では当たり前なことでしょう。しかし、全道レベルで地域と職種を超えて、語り合う機会はそうはありません。様々な立場の

人々が、地域への愛着という共通項で括られて、地域活動を熱く語る場は、私にとつてとても刺激的でした。

二つ目は地域支援事業です。ふる水事業の大きな特徴は、支援対象とする活動の幅が広く、活動内容へのしほりが非常に緩やか、ということでしょう。一般に補助事業では採択要件に、一定の活動内容(例、圃場大区画化や用排水路維持活動など)か、成果(例、交流人口の増加、農産物の品質向上)を定めています。ふる水事業には、事業内容、事業成果についての要件はなく、ある意味「何でもできる事業」です。

これは、これからの地方の活性化を展望するときに、非常に大切なことだと思います。地域には数字ではとらえられない個性があります。しかし、その個性を考慮しない画一の政策は、地方を疲弊させ、地域の人々の主体性を奪ってしまいます。地方の自立、活性化のためには、地域の人々が自分たちの地域に必要なもの、活動の成果を考え、その獲得のための行動、活動内容を考え、主体的に実践することが大切です。ふる水事業はそうした主体的で自由な活動の支援に活用できます。

この三年間、ふる水事業の点検・評価を行ってきたのは、事業をより効果的なものにすると同時に、厳しい財政状況の中でも残すべき価値ある事業であること立証したいという思いからでした。今後本事業において、指導員会の場で活発な研修・交流がはかれること、地域の個性ある取り組みへの支援が続けられることを期待します。



BOOKS



知られざる日本の地域力 - 平成の世間師たちが語る見知らん五つ星

著者：椎川 忍 ほか 発行：今井印刷

地域活性化伝道師の椎川忍や、昨年のヒットセラー書籍「里山資本主義」の著者である藻谷浩介をはじめ、小田切徳美、山田桂一郎、木村俊昭、高橋信博、武居丈二、斉藤俊幸、宮口侗迪、小西砂千夫の地方創成プロフェッショナル10人が、地域資源を活用し活性化に取り組む各地の活動を紹介します。

帯紙には石破国務大臣がメッセージを寄せる、地方創成のための注目の一冊！

ブロック別ミーティング

平成二十六年年度に道南・道東で試験的に開催したブロック別ミーティングは、平成二十七年年度から各ブロックで開催します。各ブロックの幹事が中心となって開催するこの研修は、地域ならではの課題を検討し、情報交換をすることにより、より地域を理解し更なる地域活動を活性化することを目的としています。

幹事から各アドバイザーへ日程調整等のご連絡をいたしますので、スムーズな開催についてご協力をお願いします。



道南ブロックミーティングは函館市で開催しました。小笠原明彦アドバイザー、田中いずみアドバイザーから活動報告をしていただきました。



道東ブロックミーティングは鶴居村で開催しました。伊藤由紀子アドバイザー、菱沼千絵アドバイザー、高橋貴子アドバイザーから活動報告をしていただきました。

新任アドバイザーのご紹介

今年度 十名が新たに北海道里づく
アドバイザーに加わりましたので、
ご紹介します。



佐藤 節子さん

(別海町)

昨年八月からアドバイザーになりました。別海町で酪農家をしており、生乳生産量日本一の牛乳を活用した新メニュー開発や、漁業地域の子どもたちへ酪農に関する出前授業を行っています。子どもたちに食と農の大切さを伝えていけるような取り組みをしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。



高橋 豊子さん

(鹿追町)

昨年六月にアドバイザーになりました。鹿追町は然別湖とその周辺には天然記念物のおしよこま、ナキウサギが生息する自然豊かな、酪農が主要産業のマチです。優れた「食」、それを「つくる人の想い」を知ること、「ここに住んでいて良かった!」「帰って来たい!」と思えるよう、つなぐ活動をしていきます。どうぞよろしくお願ひします。



山元 真基さん

(豊富町)

酪農と温泉と湿原の町、豊富町において、町と温泉、農村とを繋ぐフットパスの整備と活用を進めています。また、子どもから大人まで地域のみなさんに地域の自然や文化の素晴らしさを再認識してもらえよう、自然観察・体験指導等に取り組んでいます。



尾崎 滋さん

(豊富町)

静岡県静岡市出身。豊富温泉の総合案内所コンシェルジュをしています。豊富温泉は世界でも珍しい「原油の混じった」泉質を持ち、慢性皮膚病に効果があるとして、全国各地から毎年三万人近くの湯治客が訪れます。自身も温泉に助けられた経験から様々な相談にのったり、地元民と湯治客をつなぐ橋渡し役として街づくりにも参加しています。



高橋 美佐子さん

(厚岸町)

私の住む厚岸町には別寒辺牛湿原があります。ここには数多くの鴨や白鳥が飛来します。湿原を流れる別寒辺牛川は、牡蠣が捕れる厚岸湖・厚岸湾へと続きます。この豊かな環境を守ることは「食」へと繋がっているのです。子ども達と一緒にそんなことを学んでいきたいと思えます。



Sawada 千絵さん

(豊后村)

昨年の八月から、アドバイザーになりました。子育て中の仲間と楽しみながら、みんなが集える場作りに取り組んでいます。大好きな鶴居村が、少しでも元気になるように頑張っていきたいです。よろしくお願ひ致します。



田中 義光さん

(日高町)

昨年八月よりアドバイザーになりました。この先地域が少しでも元気が出るよう、楽しさを感じるよう、食等を通して頑張りますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。



佐藤 剛さん

(新冠町)

昨年八月よりアドバイザーになりました。地域が少しでも元気が出るように、食等を通して、これから頑張りますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。



久保 美恵子さん

(湧別町)

昨年九月からアドバイザーになりました。「レークランド久保牧場」で夫と家族で酪農を教育に開放する傍ら、地域の食材を活用した特産物を開発中です。食育等を通じ、その価値を地域で共有できればと考えています。どうぞよろしくお願ひします。



田阪 正実さん

(鷹栖町)

昨年九月から新人アドバイザーになりました。鷹栖町の農業を若い世代に知ってもらうために農業体験の受入や障害者自立支援に取り組んでいます。今の農業情勢は厳しいですが、食に対する安心安全を農業体験等を通して若い世代に広めていきたいと思えます。宜しくお願ひします。

地域づくり研修会を開催しました

平成26年9月18日（木）にセンチュリーロイヤルホテルにおいて、平成26年度地域づくり研修会を開催しました。基調講演では、北海道の食を発信するフードライターの小西由稀さんに「北海道の食はなぜ人を惹きつけるのか～その魅力と可能性について～」と題して、お話しいただきました。

また、道内で先進的な活動を行う、滝川市中野ふぁ～む 中野義治さん、白糠町地域おこし協力隊 根津真枝さん、別海町観光協会事務局 松本博史さんに活動紹介をしていただきました。

その後、小西さんのコーディネートで、活動紹介をしていただいた3名をパネラーとしてディスカッションを行いました。



現地研修を別海町で行いました

平成26年10月16日（木）～17日（金）の日程で現地研修を別海町で行いました。

研修では、野付漁業協同組合が取り組む「お魚殖やす植樹活動」や、上風連みどりネットワークが整備する「みるみるの森」での景観形成、別海町でのグリーンツーリズムへの取組についてお話しを伺いました。また、べつかい乳業興社の工場見学を行いました。

研修内容について、参加者がディスカッションを行い、自然との共生、環境保全是食物への信頼性に繋がるなどの意見が出されました。

食事では、北海シマエビやホタテなど別海の食材を活かした料理が提供されました。

指導員会を開催しました

平成27年1月23日（金）に毎日会館において、平成26年度北海道ふるさと・水と土指導員会を開催しました。

長年、北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会で委員長を務める、武蔵女子短大の松本靖准教授に「地域活性化活動の成功例と失敗例に学ぶ～地域活動支援事業点検・評価から～」と題してご講演をいただきました。

その後、各自が取り組んでいる地域活動について、目的を達成するために要素・主体・資源のバランスが取れているかをグループ毎で話し合い、発表を行いました。



表紙紹介
 昔前町では、昔前小学校と古丹別小学校の五年生を対象に、稲作の体験学習を毎年行っています。
 町のJA青年部と教育委員会が連携して実施しており、籾蒔き、田植え、生育調査、稲刈りを体験し、その成果を子供たちが発表します。
 写真は、田植え体験を行い、肘まで泥だらけになった子供たちです。
 きっと足も膝まで泥だらけのはずですが、とても楽しそうな様子でカメラに向かってポーズを取っています。